



手を貸そう

Lend a Hand

2003-2004年度 国際ロータリーのテーマ

第 2560 地区ガバナー

- 原 信一
- 会 長 佐野 勝 栄
- 会長エレクト 渡 辺 喜 彦(クラブ奉仕 A)
- 副 会 長 小 越 憲 泰(クラブ奉仕 B)
- 幹 事 荻 根 沢 隆 雄
- S A A 杉 山 幸 英
- 会 計 渋 谷 正 一

- 例 会 日 毎週水曜日 12:30~
- 例会場及び 三条市旭町 2-5-10
- 事 務 局 三条信用金庫本店内
- 例 会 場 TEL 35-3311
- 事 務 局 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp

web: http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/

(~は shift を押しながら“へ” のキーを押してください)

本日の出席会員数	63名中43名
先々週出席率	81.67%

会 長 挨 拶

佐野 勝 栄 会 長



皆様こんにちは、
皆様もご承知の様に、この暮れに入り、事務局の田中さんのご母堂が5日亡くなられ、そして6日佐藤浩一会員のご尊父と相次いで亡くなられました

事に、ご冥福をお祈りしたいと思います。大事な一人娘としてかわいがって育ててくれた母を予期もせず、突然の事故で亡くされた事はどんなにも悲しい事が想像を絶します。事務局として、私共の屋台骨を支えて頂いている田中さんと佐藤さんに謹んで哀悼の意を表したいと思います。この悲しみからまだ抜け出せないでおられると思いますが、気を落とさず頑張ってくださいと思います。日曜から昨日まで3日間葬儀に出まして、私までも気が落ち込み、今日の挨拶も余り気乗りしません、お役目なのでお話しします。

先週の4日はローターアクト主催で長久の家

ゲ ス ト (株) 兼古製作所 兼古耕一様

ヴィジター 三条北より 石川勝行さん

先週のメイクアップ

- 11/27 加茂へ 渡辺喜彦さん
- 12/ 3 新井へ 加藤紋次郎さん
- 12/ 8 三条南へ 平原信行さん 斎藤弘文さん
吉井俊介さん

にて餅つき大会をしてみいました。アクト委員長の橋さんを始め本間さん、中村さん、そして荻根沢幹事の5名の参加、ご苦労様でした。来週の17日も恒例の「いがらしの里」へサンタクロースに紛して、金子社会奉仕副委員長を始め、石月さん、山田さん、会報委員そして私と幹事総勢6名参加の予定です。いずれも障害を持つ成年や子供達です。年に1回の訪問でも、ものすごく喜んでくれて、こちらの方が照れくさいですが一緒に餅を突きワキアイアイと楽しむ事ができました。この様な障害を抱えた人は、ハンディを負った分、本当に素直で純粋、純朴で心根やさしく育っているのですね、同じ年齢の健常者と比較すると体力がなく、すぐに疲れるそうです。先週もお話しましたが、彼らの将来をサポートする公共機関、施設の充実を早く手当てをしななければならないと益々痛感しました。

我々は幸運にも五体満足に生まれ、経済的にも恵まれ、こうしてロータリーアンとして社会奉仕、職業奉仕をする団体として活動している訳ですが、今一度この様なハンディを抱えた人達の現状を直視し、奉仕活動についてどうあるべきか改めて考えてみる必要があるのではないのでしょうか？皆様の中で、この様にして行けばというご意見や感慨をいただきたいと思えます。又、ローターアクトの若い人達からも意見を頂戴したいと考えています。

私の今年度の会長方針で、
「恵まれない人々へ手を貸そう！」
 を掲げましたが、一概に恵まれないといっても、多種、多様性に富んで幅広く、抽象的な表現ですが、ワクをはめずにまずは、身近な地域での奉仕で、できない事はないか？そして、次は国際奉仕と考えています。今日は簡単ですが、皆様からのご助言、ご支援をお願いして終わります。

幹事報告

荻根沢隆雄幹事

◎ 原ガバナー事務所より
「地域防災セミナー」
 開催のご案内が届いております

と き 平成16年1月25日(月)
 PM1:00~4:00
 ところ 長岡造形大学 講堂

ニコニコBOX

佐野勝栄さん

田中さん、佐藤浩一さんに対してご冥福をお祈りいたします。
 今日の卓話を頂く兼古様よろしくお願ひ致します。

荻根沢隆雄さん

兼古様、今日は卓話有難うございます。感謝申し上げます。

会田二郎さん

田中様のお母さんのご不幸悲しく思いました。
 田中さん、一日も早くお元気になられますようにと祈ります。

広岡豊作さん

卓誕生日の写真有難うございました。こんな笑顔の私があったのでしょうか。いつまでもこの顔でいたいです。

渡辺勝利さん

誕生日に渋谷会員に写して頂いた写真が上手く撮れていて会議所のパンフレット等に無料で焼き増しして頂き使わせて頂きました。

青木文雄さん、五十嵐力さん、石塚欣司さん、
 小越憲泰さん、小柳直人さん、船越正夫さん
 松谷晃吉さん

兼古様卓話有難うございます。楽しみにしております。

山田富義さん

先ほど新潟県安全運転管理者協会より交通安全事故対策コンクールで表彰されました。

藤田紘一さん

早退させていただきます。

12月10日分 ￥17,000
 今年度累計 ￥492,000

卓話



(株)兼古製作所
 社長 兼古 耕一 氏

第四銀行の内山支店長さんから依頼があり、講話を引き受けました。私は三条中央ライオンズクラブで幹事をしており、各ロータリーさんには大変お世話になっております。今日はGマークを中心にお話したいと思えますが、詳しくはインターネットのホームページに掲載してあるのでご覧下さい。

私どもはドライバーを主体とした商品を製作しています、当初はクローバーと言うブランド名でしたが、私の代から ANEX(アネックス)に変更しました。金属の素材加工から機械加工や熱処理、プラスチック成型も含め一貫生産するメーカーです。その他電動工具のアタッチメント、ドライバービットなども多く製作している現状です。最近ではコンピューターをはじめハードディスク、携帯電話など非常に小さく多様なネジが使用されるようになったことが背景にあります。中国など海外向けにも供給しておりロボットにより組み立てられるネジなど特殊なものはメーカーとの共同開発も行っています。

当社はお陰さまで19年連続してGマークを頂き、これまで品目数で48点のアイテムとなっています。これは県央地区、また作業工具業界では最多であると自負しております。私がなぜGマークなどに興味を示したかと言うと、私は昭和26年生まれで52歳ですが、中学校から大学を通じてずっと美術クラブに属し油絵を描いていました。卒業後暫く就職した後、地元に戻ってきたところ、デザインなど美術の世界には全く関係のない、工具の世界に二代目として入った訳です。その当時の工具は色や形などほとんど創造性のない面白くない仕事であり、なんでやらなくてはいけないのか非常に不満たらたら、本寺小路に通ったものです。

営業面では地元や関西の商社などに売り込みに出かけましたが、「気持ちは解るがおまえの所から買う商品は無い」などと言われ苦労しましたが、結果として商品に魅力がなければいけない事をつくづく感じさせられました。それから商品開発に力を入れ、お客さまから「是非欲しい」と言う商品を目指し、これまでやってきた美術デザインの勉強が活かされることになりました。

Gマークの件ですが、先ほど話した通り、当社

はこれまで「ロングライフデザイン賞」が15アイテム、インパクトドライバーが「中小企業庁長官特別賞」などを頂きました。

次にGマークの歴史であります、1957年、当時の通産省がGマーク制度を制定いたしました。その背景は当時の外務大臣が外国から「日本の商品は外国のコピーであり大変困る」とお叱りを受け、それがキッカケとなって通産省内で論議した結果出来たものが「Gマーク制度」と聞いています。今日では逆の問題が発生していますが、当時は日本が外国商品をコピーする模倣問題があり、これを克服するため、新しく創造することを奨励して、日本の商品に誇りを持つと、この制度に取組んだものであり、正に先見の明があったと思えます。初期の頃のGマーク制度は審査員が良い商品を集めながら国民にアピールしておったそうです。

次の時代には「輸出振興」と言うことで、クオリティの高い商品を示す基準(スタンダード)へと育っていきました。

その次の時代になりますと制度の認知度が高まり、65%の方が認知するようになってきました。輸出産業は家具とかインテリアとか日用品などから、電気、電子機器が主役となってまいりました。その頃から、Gマークの「大賞」「部門賞」「ロングライフデザイン賞」が設定され、地味でも息の長く続くデザインを大切にしようと言う意図がありまして、派手な商品の影に隠れながら評価されるようになりました。

それから1980年代に入ると生活の質を確保しようと言うことで、全ての工業製品へと拡大されました。消費材から生産材や医療分野・教育・公共分野までデザインが導入されてきました。

1990年代では国際水準の確保と言うことで、国内のデザインが一定の水準になると同時に、韓国や台湾のレベルが非常にアップしてきた。こうしたことからデザインもユニバーサルデザイン、インターラクティブデザイン、あとはエコロジーデザインなどの視点でデザインができました。

現在ではデザインイニシアティブな活動になってきており、行政改革の一環として民営化され、国選に近いものだったGマーク制度が行政改革により経済産業大臣から会長表彰に変更され若干権威付けがなくなりました。自分たちは自分たちでデザインしていくと言う、ビジネスライクな付き合いが始まりました。このころから建築環境デザインとかコミュニケーションデザインとか新領域デザインなど全ての物にデザインが出始めてきています。

日本デザイン振興会は東京の浜松町の世界貿

易センター内にあります、そこに行くと、いろいろな資料や過去の表彰商品のデータがそろっています。

この県央地区のGマークの先駆者としては、燕の小林工業さんが一番古いと思いますがGマークに選定にされています。当然ロングライフデザインも数多くございます。三条ではマルト長谷川さんが一番古いと聞いています。デザイナーの小杉二郎さんが指導されました。刃物関係では坂源さんも古いと思います。私も坂源さんの社長を訪ね、どうやったら取れるのか申請などを含め指導いただいたことを憶えています。

最近では大手のコロナさんやツインバーバードさんとか東芝ホームテクノさんとかスノーピークさんなどが沢山出しておられます。

燕・三条地区は全国でも地域としては一番多く授賞しており、新潟県でも県央地区が飛びぬけており誇るべきものであります。従ってこの地域は全国的に評価が大変高く注目されています。東京のデザイナーが地場産センターなどの事業を通して多くいらっしゃいます。

私ども(協)三条工業会でお世話になっております堀越先生や益田文一先生などもGマークの審査員であり、この地区は審査員が沢山訪問され、大変恵まれた環境にあります。やる気になれば何でも利用できる環境ですが、その割には十分に活用がされていない現状に先生方から不満の声も聞かれます。

大手の電機メーカーはGマークを取ると、特別の報酬が出るようで、一点で何十万とか何点なら何百万もらえるという話を聞いたことがあります。Gマークを取るための活用がまだまだ足りない先生方はおっしゃっています。

Gマークの効果・効用ですが、私どものようなブランド力の無かった企業にとってはJISマークと並ぶかそれ以上の国が与えてくれたお墨付きであり、非常に役に立っております。特に認知度の高い都会の消費者層やバイヤーさんには評価されています。

また、Gマークに入った商品は、ほぼ100%意匠登録が取れると思います。選定されるには特許庁の特別の調査があり、基本的に国が認めたと言う裏付けがされるからであります。更に選定されますと、海外のメーカーのコピーが激減します。国が認めた商品はコピーしたがるならないという事になるからです。私どもの商品のコピーが比較的少ないことはこうした影響があると自負しております。

海外での同様な制度は日本の影響を受け韓国、香港、台湾にもあり、また、ドイツには独自の選

定制度があります。

Gマークについて県央地区で恵まれているのは、リサーチコアにデザインセンターがあり、Gマークの申請業務などについて詳しく知っており、そのノウハウやPRなど含めバックアップしてもらえることです。

もうひとつとして、Gマークと同じ意味合いであるIDS(イデス)と言う賞があります。朱鷺メッセの中にある新潟産業創造機構が実施しているものです。最初にIDSの賞を取ると、次にGマークの賞が取りやすくなるとともに当社としての商品開発のスケジュール化やPRにも役立っております。

次にデザインの役割ですが、私は「金型」の一部と考えています。金型の値段はすぐ百万円も二百万円もしますが、中途半端に造ると売れなくなる可能性があります。従って出来るだけ売れる確立を高めるため、商品開発に当たっては売れる為のデザインを考えることが大変重要であると考えております。

そんなことから、我社のデザインコンセプトとしては、「シンプルであること」「スマートであること」「操作性に優れていること」「独自性があること」を基本としております。

また、最近は商品のイメージがより重要になってきており、見ただけで当社の商品と分かる「ANEX」らしいスタイルに向け取組んでおります。そして、デザインにより企業文化を売る情報産業を目指し、形を通して我々の文化を伝える、そういう気持ちで取組んでいきたいと考えております。

理想を求めて商品開発を始めてから、お陰さまで9年連続してGマークを頂きましたが、今後もこの精神を忘れず邁進していきたいと思っております。ご清聴有難うございました。

次週 例会 12月24日(水) 会員卓話
浅野欣司会員 猪口英夫会員

次々週例会 12月31日(水)
クラブ休会

